

ESCIにおけるOA、被引用状況 OA and citation in ESCI

学籍番号：201821635

氏名：村田 龍太郎

Murata Ryutaro

近年、公的資金によって行われた研究成果は社会へオープンにされるべきであるという考えから、査読された論文がインターネット上において無料かつ制約無しで利用可能な状態であることを指すオープンアクセス(以下OA)や、OAに研究データ等を含めたオープンサイエンスが推進されている。OAに関してはどの程度の論文がOAで手に入るかという状況や、OAの方がより被引用数が多いのかという関係を調べる研究が行われている。OA状況については、Web of Science Core Collection(以下WoSCC)などの引用索引データベースが用いられてきた。2015年、WoSCCに新興地域・分野のジャーナルを収録対象にしたEmerging Sources Citation Index(以下ESCI)が創設された。WoS全体の分析は行われてきたが、ESCIに注目した分析は行われていない。分野を越えた研究成果の共有によるイノベーション促進の観点からもOAが推進されている現在、ESCIのOAやOAと被引用の関係を把握するため、以下の視点から調査を行った。

- (1) ESCIにおいて全体・国・分野ごとにどの程度の論文がOAになっているのか
- (2) ESCIとWoSCCの他インデックスに関して、全体・国・分野ごとのOA率に違いはあるのか
- (3) ESCIにおいてはOAの方がより多く引用されているのか

WoSCC収録のScience Citation Index Expanded(以下SCIE)、Social Sciences Citation Index(以下SSCI)、Arts & Humanities Citation Index(以下A&HCI)、ESCIを対象に出版年が2013年から2018年の論文のレコードを収集し、国・分野ごとのOA率と、OAの方がより被引用数が多いのかを調査した。

その結果、(1)全体としては2013年の約40%から2018年の約50%へとOA率が上昇していることが挙げられる。(2)出版国としてはコロンビア、ポーランドなどにおけるゴールドOA率が高い。(3)ゴールド平均被引用数と非ゴールド平均被引用数の割合は2017年を除いて1未満であり、ESCI全体においてゴールドOAの方がより引用されているとは言えず、OA全体(ゴールド、ハイブリッド、グリーン、ブロンズ)と非OAについて出版年が近いものでは非OAの方がより引用される傾向にあると考えられる。

研究指導教員：逸村 裕

副研究指導教員：溝上 智恵子